

## 日本トライボロジー学会 トライボロジー遺産認定 「国産初の静圧流体軸受搭載高精度研削盤」

First Domestic High Precision Grinding Machine Using Hydrostatic Bearings  
Recognized as Tribology Inheritance by the Japanese Society of Tribologists

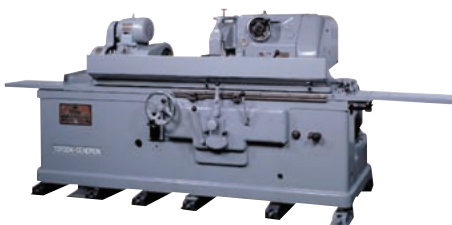
2014年5月20日、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された一般社団法人日本トライボロジー学会第58期定時社員総会において、当社の「RA25-100形」研削盤とそこに使われている初期型の静圧流体軸受およびその図面が、トライボロジー遺産第13号に認定された。

静圧流体軸受は金属同士が直接接触することなく回転軸を強固に支持することで、高精度回転を実現する重要な機械要素部品である。いち早く静圧流体軸受の性能に着目した当社は、当時静圧流体軸受の技術を持っていた仏国ジャンドルン社と1955年11月に技術提携をして技術を導入、翌年より日本で初めて静圧流体軸受を搭載した研削盤の生産を開始した。この研削盤は国産の高精度研削盤として好評を博し販売開始4年で1600台を販売し、高精度研削盤メーカーとして当社はその礎を築いた。

その技術史に残る研削盤の初号機の納入先はいすゞ自動車株式会社殿で、1988年まで使用された後に当社が譲り受け、現在、当社のカスタマーセンター（工作機械展示場、愛知県刈谷市）で一般公開している。

今回、「科学と技術の発展の歴史において重要な貢献をしたトライボロジーに関係する技術や事物を発掘し保存するために『トライボロジー遺産』として情報発信と顕彰を行う」という目的にかなう貴重な資料としてこの研削盤が日本トライボロジー学会より高い評価を受け、認定されるに至った。

また、静圧流体軸受は、その後も当社で独自に改良を重ねながら製造は継続され、TOYODA STAT BEARINGの名とともに、当社研削盤の高精度加工のキーテクノロジーとして現在も採用され続けている。



RA25-100形研削盤



初期型静圧流体軸受



日本トライボロジー学会益子正文会長（左）と贈呈式に出席した杉山和久主担当（右）



トライボロジー遺産認定証